

シンポジウム「世界の科学教育」

開催日時：平成17年1月8日(土) 午後1時から6時まで

開催場所：東京大学教養学部13号館1313教室

主催団体：日本学術会議動物科学研究連絡委員会、ティーチングキッズ、日本動物学会、高等教育フォーラム(共同主催)

開催目的：今日の日本社会は科学技術に大いに依存しているにも関わらず、科学技術に対する軽視、いわゆる「理科離れ」が進みつつある。初中等教育においても理科系教科内容削減や科目選択化等が進み、必ずしもこの傾向を改善しようとする兆しは見えない。この状況を分析し、対応策を考える上で、諸外国の科学教育の現状を知ることは重要である。そこで、本シンポジウムでは、アメリカと中国など諸外国における科学教育の現状を把握し、日本の理科教育改善へのヒントを得ることを目的とする。

参加費：無料、参加登録：不要

予定講演者(講演順、演題は仮題、敬称略)：

星 元紀(日本学術会議会員、慶応大学教授) 「問題提起」

北原和夫(日本学術会議会員、国際基督教大学教授)

「日本学術会議における理科教育問題への取り組み」

古川 和(ジャパン GEMS センター事務局長)

「GEMS, Great Explorations in Math and Science の活動とアメリカの科学教育」

西村和雄(京都大学教授) 「数学教育の国際比較」

渡辺 正(東京大学教授) 「化学教育の国際比較」

松田良一(東京大学助教授) 「高校生物教科書の国際比較」

椎 廣行(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長)

「科学系博物館の科学教育」

筒井勝美(英進館館長) 「教科書の変遷から見た理数教科内容削減の歴史」

酒井由紀子(東京大学教養学部理科2類2年)

「シカゴの公立高校における AP (Advanced Placement Program) 教育体験」

古谷美央(東京大学大学院医学系研究科博士課程1年)

「ダラスの公立高校における AP 教育体験」

林 万雅(中国語教師) 「中国に遅れる日本の公教育」

パネルディスカッション(順不同、敬称略)：

下村博文(文部科学省政務官) 立花 隆(予定、評論家、元東京大学客員教授)

黒田玲子(東京大学教授) と講演者全員

司会進行：松田良一(東京大学助教授)

問合せ先：〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 松田良一

電話 03-5454-6637、FAX 03-5454-4306 ryoichi@matsuda.c.u-tokyo.ac.jp